

# 地学協働

10

2023年7月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課



バックナンバーはこちらから御覧いただけます。

## 1 コミュニティ・スクール～道立高校における好事例～

今月号は、地域と協働体制を構築し、コミュニティ・スクールの取組を進めている北海道寿都高等学校の事例を取り上げ、効果的な取組の具体について紹介します。

### 北海道寿都高等学校のコミュニティ・スクールの取組



北海道寿都高等学校（以下、寿都高校）では、「地域と一体となって、生徒が多様な価値観に触れられる教育活動」、「学校教育の充実と地域の活性化が相互作用する教育活動」、「生徒が学び喜びと充実感をもち、郷土への愛着を育む教育活動」を推進できるよう、学校運営協議会を年3回実施し、「地域とともにある学校づくり」を進めています。

**地域と学校が同じ目標に向かって取組を進めていけるよう、学校運営協議会では、子どもの成長を語り合い、今後の課題を整理し、教育活動を改善しながら、取組を着実に進めています。**

寿都高校の教育活動は、ぜひHPでもご覧ください！



### <寿都高校の学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組の紹介>



電話の対応

#### ★ここがポイント★

寿都高校第2学年の生徒が、学校運営協議会委員が所属する企業等で職場体験を実施できるよう、**地域学校協働活動推進員がインターンシップの日程調整等を行っています。**

地域学校協働活動推進員の支援による  
インターンシップの実施



#### ★ここがポイント★

町内で実施する「花いっぱい運動」に全校生徒で参加しています。  
生徒は、**地域住民との協働活動により、地域貢献への意識を高めています。**

全校生徒が地域貢献として参加する  
「花いっぱい運動」



#### ★ここがポイント★

町内の小・中学校、高等学校の児童生徒が、一堂に会し、キャリア学習について発表する際、寿都高校第1学年の生徒が、産業や観光に関する町への提言を行いました。  
最後に**寿都町長から、これからの町の取組について講評をいただくなどして、生徒は、地域創生への意識を高めています。**

地域が一体となって子どもたちや町の未来を考える  
寿都町小中高キャリア教育合同発表会

#### 【学校運営協議会委員の意見より】

- ・子どもたちの力が、様々な場所で発揮できるよう、地域ぐるみの教育を行う必要があると思います。
- ・進路活動の充実に向けて支援していきたいです。
- ・寿都高校の活発な地域貢献や教育活動を嬉しく思っています。

寿都高校の取組は、地域と学校でできることを確実に積み重ね、地域貢献に喜びを見出す生徒の育成が図られている好事例です。

開催日：令和5年（2023年）6月12日（月）

主管：留萌教育局

参加者：119名

放課後児童クラブや教育活動支援員など、放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる方々の人材の資質の向上を目的とし、子どもへの活動支援の在り方について、専門的な講義や演習等を行いました。留萌振興局講堂を会場に、参集とオンラインのハイブリット形式で実施し、全道から119名が参加しました。

## 1 講義 「特別な支援を必要とする児童生徒について」

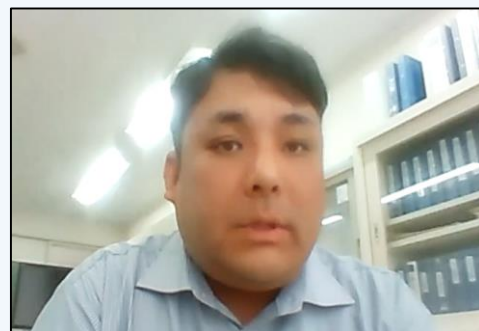
おおくぼ

じょうた

講師 北海道小平高等養護学校 特別支援教育コーディネーター 大久保 城汰 氏

特別な支援を必要とする児童生徒への社会参加を促すための効果的な関わり方等について、脳科学や行動分析学の視点を交えた講義により理論的に学ぶことができました。

「行動をやめさせる目標ではなく別の具体的な行動を目標とする」「子どもが良い行動をとったときに適切に褒めることでその行動を強化する」といった、子どもたちがより良い行動を選択できるようになるための指導者の望ましい関わり方について、理解を深めることができました。



## 参加者の感想

- 放課後活動の前に示している約束事など、具体的な行動を示す言葉を使って、指示が伝わるように変えてみます。
- 改めて自分を見つめ直す機会になりました。子どもたちとコミュニケーションをとる中で、子どもたちを理解するとともに、私自身が成長できるよう努力します。



## 2 演習 「運動が楽しくなるコーディネーショントレーニング」

くまがみ

まさみ

講師 NPO 法人日本コーディネーショントレーニング協会（JACOT）認定講師 熊耳 雅美 氏



運動自体を学習する能力や自身もともと持っている能力を引き出すとともに、運動だけでなく行動全般、さらには日々のコミュニケーション能力や知性・感性・身のこなしの向上を目的とした「コーディネーショントレーニング」について、講話と実技により体験的に理解を深めることができました。

会場の参加者のほか、オンラインによる参加者も、講師の動きに合わせ「主体的に考えながら身体を動かすこと」を意識しながらトレーニングを体験することができました。

## 3 情報交流

情報交流では、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いて6つのグループに分かれ、「特別な支援が必要な子どもに対する工夫」などについて協議を行いました。全体交流では、各グループで話し合った内容についてそれぞれのグループが発表し、共有しました。



当日の様子は  
こちらから  
御覧いただけます。

開催日：令和5年（2023年）6月20日（火）

主管：十勝教育局

参加者：363名

多様な子どもたちへの活動支援の在り方について、放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる方々を対象とした資質向上を図る協議会を開催しました。

十勝合同庁舎を会場に、参集とオンラインのハイブリット形式で実施し、全道から363名が参加しました。

## 1 講義 「多様な子どもたちも安心して過ごすために求められる関わり方」

講師 北海道教育大学釧路校 准教授 戸田 竜也氏

多様な子どもたちが安心して過ごすために求められる関わり方を学ぶため、講師の戸田准教授から「多様な子どもたちとはどんな子どもたちか」「子どもにとっての放課後の時間とは」「具体的な事例から対応を考える」の3点について説明がありました。

「多様な子どもたち」とは、発達障害の子どものほか、セクシャルマイノリティの子ども、不登校の子ども、貧困の状態で生活する子どもなどがおり、それぞれの環境の違いとともに、受け止め方の違いがあるため、一人一人の思いを理解することの重要性を学ぶことができました。

また、子どもに対して適切な支援を行うためには、問題行動の原因や背景を深く捉えることが必要であることを学びました。そのためには、子どもの言動から仮説を立て、検証することや、家庭環境などの背景の違いにより、支援や対応が大きく異なるため、問題の本質にアプローチすることが大切であることが分かりました。



### 参加者の感想

- 今後の子どもとの向き合い方の参考になった、良い機会になりました。
- 戸田先生の話がとても分かりやすかったです。
- 子どもの信頼を得るために良い関係を築けるよう頑張りたいです。

## 2 協議 「子どもたちへの関わり方～あの子のあの行動の理由を考える～」

進行 十勝教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事 皆川 敬大

助言者 北海道教育大学釧路校 准教授 戸田 竜也氏

参加者は、4人1組のグループで、助言者の戸田准教授から示された事例に対する対応方法について、協議を行いました。

職場や職種が異なる参加者が、講義の内容を参考にしながら、それぞれの立場による視点から、子どもへの関わり方を協議し、具体的な解決策について検討することができました。

グループ協議の中で参加者からは、「子どもの良いところを探して少しずつ伝えていくことが大事なのではないか」「子どもが悩みを打ち明けられる信頼関係を構築することが必要だと思う」などの意見が出ました。

その後、2つのグループが協議した内容を発表し、全体交流を通して、協議会のまとめを行いました。



# ○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

学校図書館は、学校と地域全体で連携・協力し、組織的に環境整備や利活用の促進に取り組むことが大切です。今号は、道内の2管内から、子どもたちの思いを汲んだ学校司書の取組による好事例を紹介します。

## 【胆振管内】来館する楽しみを生み出す学校図書館（登別市立西陵中学校）



「道みんの日」に関連する  
図書の展示

### 社会科の授業と連携した「道みんの日」の展示

「道みんの日」（7月17日）に関連する本の展示を2年連続（令和4年、令和5年）で行い、北海道の動植物や歴史などに関係する本を学校司書や教員が選書し、展示・貸出しました。第2学年の社会科の授業で「北海道ご当地クイズ」を出題する取組により、生徒の北海道への興味や教科の学習への関心が高まり、楽しみながら学校図書館を利用する生徒が増えました。

### 学校司書による読書相談や生徒の視点に立った図書選定

「人間関係が良好になるようなヒントを得られる本は？」「読書感想文の参考になるような本は？」「読書が苦手な弟が読めるような本は？」など、生徒から寄せられる様々な読書相談に対し、学校司書がニーズに応じた図書を紹介しています。また、生徒からのリクエストを踏まえ、興味・関心に沿った図書を選定・購入しています。



学校司書による  
生徒のニーズに応じた選書

## 【石狩管内】学校司書の温かな関わりで、児童が本に親しむ学校図書館 （恵庭市立恵み野小学校）



ホッとできる小上がりスペース

### まちぐるみで取り組む読書活動

恵庭市では、平成24年に「恵庭市人とまちを育む読書条例」を制定し、読書活動を通じた活力のあるまちづくりを推進し、市全体で小・中学校と市立図書館が連携した配本システムを活用するとともに、必要な本を揃えています。

恵み野小学校の学校図書館では、児童が使いやすい本の配架やゆっくり本を読む小上がりスペースの設置など、学校司書等による児童が本に親しむ工夫が多くなされています。

### 学校司書の声かけによる読書活動の促進

学校司書が、普段から積極的に児童や先生と本に関する会話をすることで、授業で使用する本の話や児童のニーズを把握し、他の先生が過去に使用した本の紹介等、授業等での利活用につなげています。

また、児童のニーズに応じた読書イベント等を実施し、児童の読書活動の一層の促進を図っています。



学校司書の日常的な声かけ

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益社団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>

